

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ときわの里 2

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500147		
法人名	株式会社 福伸		
事業所名	グループホーム ときわの里 2		
所在地	〒023-0826 岩手県奥州市水沢中田町4-19		
自己評価作成日	令和4年1月28日	評価結果市町村受理日	令和4年6月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様同士が共に気遣いを持って過ごしている。お互い、尊重し合っている。 ・職員は利用者様に一日一回は楽しく笑っていただけるよう、努めている。 ・おやつ時は、手作りお菓子等を提供し、好評を得ている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じ敷地内には、他法人の特別養護老人ホームなどがあり、災害時の協力協定を締結し万が一の場合の安心の一つになっている。職員全員で話し合って作られた理念や運営方針で利用者の笑顔が見られるよう、ひとり一人を大切にしながら寄り添う姿勢ができており、利用者や家族の安心に繋がっている。2ヵ月ごとの運営推進会議では委員の積極的な発言もあって事業所の運営に生かされている。また、看取りについての指針が定められ、事前事後の対応が備えられている。現在、市の指導・助言を得ながら眠りの質の向上に寄与する介護ロボットの増設を進めている。コロナ禍で様々な制限があるが、できることできないことを考えながら、法人と事業所が一丸となって実行に結び付けていく、前向きな姿勢の事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年4月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示し、職員全員が共有し、安心して生活できるよう利用者様に寄り添った支援に努めている。	理念と運営方針は、事業所の開設に当たって職員全員が話し合って決めた。理念に沿って、職員が利用者に寄り添いながら、自分で出来ることを支援すること、1日に1回はお腹の底から笑うことの出来る生活を送ることを目標に、職員全員が理念・運営方針を意識した支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、ボランティアの慰問など、交流していたが、現在はコロナ過の為交流はない。	町内会に加入し広報等も届いているが、コロナ禍により地域との交流は難しい状況にある。近くの保育園児の来訪や踊りやマジックのボランティアで賑やかだった数年前が懐かしい。コロナ禍収束後を見据えた交流の再開を模索し始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページを公開し、利用者様の様子などを積極的に発信している。遠隔地(海外含む)の家族より喜ばれている。またH30年度より、隔月で「ときわの里だより」(紙媒体)を発行し、介護に関する情報も掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開き地域の方や家族代表の方にどのような支援をしているか報告し、会議内容を職員に後日回覧している。	以前は書面開催としていたが、この10月と12月には参集形式で開催したところ、委員から活発な質問や意見をいただいた。感染症・食中毒に関連し、処理の仕方を動画で保存してはどうかとの提言をいただくなど、サービス向上に有効な会議になっている。	運営推進会議の報告事項に、ヒヤリハットについても取り上げ、委員から前向きのご意見をいただき、会議が一層活発化することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公的機関に出向き、積極的に助言協力をいただいている。H29年度の厚生労働省の介護ロボット補助事業を受け、H30年度には追加で介護ロボットを増設し、支援を受けている。毎月、「ボランティア情報」を新聞に掲載枠を取ってもらっている。	管理者が市の担当課に相談することが多く、頻繁に助言をいただくなど協力関係が築かれている。特に介護ロボットについては、的確な助言により導入に結び付いており、現在も増設に向けて相談し、指導・助言をいただいているところである。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ときわの里 2

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で気づいたことをその都度話し合い、また家族と連携をとって拘束ゼロに取り組んでいる。	サービス向上委員会の中に身体拘束を防止する部会があり年4回開催するとともに、研修会も毎月行っている。家族には「入居時リスク説明書」を渡し、安全な環境づくりに努めていても高齢者特有の怪我などが発生する可能性があることを丁寧に説明している。スピーチロックについては、ユニット会議の度に注意を促し、理念にある笑顔や明るい声の絶えない生活の提供に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員一体となり、利用者様の声かけや対応の仕方に気をつけている。特に、言葉遣いには気を配っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員がその内容をサービス向上委員会で報告し、学ぶ機会を持つようだったが、現在は、コロナ禍の為、現在はユニット会議の際にネット配信研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、または入居後、その都度、説明をし理解を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けたり、運営推進委員会の資料、議事録を、閲覧可能にしている。市派遣の介護相談員を年2回受け入れている。またご家族がいらした時に、話しかけ要望を聞いている。	コロナ禍で家族の面会に制限を設けており、電話での連絡時や通院の際に話したり、意見を伺っている。かつて特養への入所についての相談が家族からあり、説明の場を設定したことがあったが、コロナ禍のため結果的には流れている。相談対応は組織的に行う体制ができている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、代表者と面談する機会を定期的に設けており、意見を吸い上げている。また、職員会議での意見も、会社全体の会議で共有し、反映している。	職員には年1回、上司との面談の場が設けられており、思いを伝える機会が確保されている。そのほか、普段に管理者や社長に対して困ったことについての相談ができおり、研修の希望、シフトの変更、物品の調達など様々な提案等に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に、代表者との個別面談の機会があり、職員の話をしている。また職員の意欲の向上を考え、就業規則、賃金体系の改定を社会保険労務士を入れて進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の申し込みを掲示し、研修の参加を促している。就業規則、賃金体系の見直しと同時に、研修体系の見直しも行っている。管理者に対して、月1回、人材育成や組織運営などのコンサルティング面談を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームページでホームの情報を発信し身近に感じられる取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者一人ひとりに対し、傾聴し、不安要素を取り除くよう接し、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っていることや困っていることに耳を傾け、関係づくりに努めている。また利用者様本人の希望も取り入れ、安心できる支援をするよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期ケアプランやアセスメントで情報を職員全員が目を通し、支援の内容を話しあいながら進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する際、相手の立場になって介護するよう努めている。利用者様ができること(モップがけ、洗濯物干し、など)を一緒に行いながら、本人の尊厳を守り、共に生活する関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙で利用者様の近況を伝え、家族との絆を大切にしている。認知症でわからなくなったことへの不安を傾聴し、まだできることを家族と相談しながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にいらっしゃった時は、ゆっくり話ができるよう配慮しているが、今はコロナ禍の為、リモート面会を取り入れている。	以前は友人の来訪もあったが、最近は無くなっている。それでも、年に何回か隣町に住む古くからの友人から電話がかかってくる高齢の利用者がいる。家族との面会はリモートの利用や窓越しとなっている。職員一人一人が馴染みの関係の大切さを理解しており、より良い方法等を検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食事の席など考慮し孤立しないよう配慮している。毎日のレクリエーションで利用者同士が関われるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからの支援は難しいところがあるが、入院中の様子や、他施設の情報提供など、可能な範囲で支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの毎日の生活ペースを把握し、希望や意向を聞き取りサービスを提供できるよう努めている。	日頃の会話の中で一人一人の思いをくみ取ることに努めている。例えば、正月には1年の抱負を書き記し、七夕の短冊にも思いや希望を利用者に書いてもらっている。行事について、どのように過ごしたいのかを聴き取ったり、表情から推測したりしながら、美味しいものを食べたい、皆と楽しく過ごしたいなど、可能な限り意向の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に訪問し、本人や家族から生活歴などを職員間で共有している。また本人に聞いたり、ご家族に聞いたりしながら、これまでの生活の把握に努めている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ときわの里 2

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話や行動などを個別ケースに記録し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットの定例会議で、ケース検討をし、介護計画の意見を出し合っている。	毎日の業務日誌、毎月のケース検討で全職員が利用者全員の目標到達度を確認しながら、6か月ごとに見直しを行っている。利用者それぞれの状態について、ケアマネがその都度業務日誌と個別ケースファイルで確認している。タブレット端末を利用した情報の集約についても検討している。	理念や運営方針に掲げる方針を具体的に各利用者の介護計画の目標として盛り込むことにより、理念の実践を通じたサービスの一層の向上を図られることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事務職員を含めた毎朝の申し送りや業務日誌、個別ケースで情報共有をし、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に変化があれば、その都度要望に応じて支援できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園の慰問や、ボランティアの受け入れを行っていたが、コロナ禍の為交流出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎回、医療連携シートに本人の状況を記録して、かかりつけ医と連携をとっている。かかりつけ医からの返信もいただき、支援にいかしている。	全員が入居前と同じかかりつけ医を受診している。医療連携シートに本人の状況を記載し、医師からの返事をもらうなど、かかりつけ医との協力関係を密にしている。通院にシルバー人材センターの利用や歯科の訪問診療など、適切な医療を受診できる仕組みが確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいるので、何かあれば看護職員に相談し、薬局に相談したり、アドバイスをもらっている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ときわの里 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、利用者の情報提供をしたり、医療連携室とのカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として看取り講習を行い、終末期のあり方の対応などを勉強していたが、今はコロナ過の為、講習は行われていない。家族とは面談をし、職員間でも話し合いを行い、支援に取り組んでいる。	看取りに関する指針が定められ、看取り介護の考え方から介護の視点、介護の具体的な方法、看取り介護の終了後のカンファレンス実施などが明記されている。これまでに看取りの経験があるものの、現在は対象となっている利用者はいない。今後、看取りが必要となることも想定され、職員間で具体的にどうするのかの話し合いが進められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、研修会を行うなど、実践できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い、避難経路を各職員が把握している。	5月と10月に、火災発生時の避難訓練を実施している。消防用設備の保守点検を行う業者が立ち合い、ヘルメットの着用等の指摘をいただいている。夜間想定訓練では夜勤者のみでの対応も経験している。地域の方々の協力をいただくことが課題である。	近隣の協力について、運営推進会議等でその具体的役割を示しながら、地域住民代表の委員をコアに幅広い意見を集約し協力体制を構築していくことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった声がけや話し方に気をつけている。特に排泄介助などは注意している。	一人一人の尊厳を守ろうとする理念を掲げ、本人のプライバシー、プライドに配慮した介護に努めている。声掛けが大きくなってしまわないよう注意し合うなど、職員全員が利用者の誇りを尊重する介護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をくみとり、自己決定ができるように、返答を待つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先するのではなく、利用者様本人のペースに合わせて、無理強いをしないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用したり、衣服を利用者様本人に選んでもらっている。髪を切る時は、自分の好みを伝えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れている。や枝豆もぎ、ゴマすりやお盆拭き、テーブル拭きなど一緒にしている。下膳をお願いしている。	半月ごとにユニット毎に交代しながら職員が調理している。利用者との買い出しはコロナ禍で中止しており、食材は毎日配達されている。献立は利用者の希望を聞きながら職員が調理している。行事の際は利用者と一緒に作ることもあり、また、手作りおやつ、食器の色合いの工夫など、食事が楽しいものになるよう工夫を重ねている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、健康管理に役立てている。不足しているときは、どのような対応をしたらよいか考え支援している。また栄養補助食品やトロミ剤も利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様本人で磨いた後、職員がチェックし、仕上げ磨きを行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ときわの里 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけで誘導している。排便困難な場合は、腹圧をかけたりマッサージをしたり、運動を促すよう支援している。	自分で行きたいとする利用者がほとんどで、それに寄り添った対応を心掛けている。食事の時間が近づくあたりを目安にするなど、自然な誘導になっている。夜間は、介護ロボット(センサー)で眠りの様子をモニターしながら必要な支援を行っている。歩くのが怖いとして車椅子を使っていた利用者が、トイレを使いたいとの一念から排泄の自立に努めた結果、オムツが外れた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけを行っている。新聞2紙を2ユニット間で交換するため、利用者様に新聞配達をお願いし、運動を促している。薬を使った排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、入浴を楽しんでいただけるよう、時間をゆっくりとっている。入浴中は、歌をうたったり、昔話を聞いたりしてリラックスしていただいている。	週2回、日曜を除く毎日の午前中に1日3人ずつ、一人30分程度をかけた入浴となっている。浴室では職員と一緒に歌ったりするなど、リラックスした時間となっている。異性介助の問題もなく、リフト浴も準備されており、安全・安心な入浴ができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで横になったりと、利用者様本人の生活ペースに合わせて休んでいただいている。午睡はされない利用者様もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報紙で、服薬内容を確認し、服薬時も誤薬などないよう数人の職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様と一緒に壁面の飾りを作成したり、洗濯物たたみ、食器拭き等、残存能力を活かしている。歌をうたう、絵を描く、頭の体操などレクリエーションを毎日行っている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ときわの里 2

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外に散歩に出たり、花壇をみたり、ゴミ捨てと一緒にいたりしている。また家族の協力で、通院時を利用して、外食を楽しんでいたが、今はコロナ禍の為、控えてもらっている。	コロナ禍で様々な制限があるものの、暖かくなってきた昨今では、朝食後、庭に出て花壇への水やり、玄関わきに椅子を持ち出しての佇みなどを勧めている。3人ずつのミニドライブも好評で、今は花見が中心になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に一度のパン訪問販売を利用して、利用者様本人で買い物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を取り次いでいるが、耳も遠く話しが理解できず、職員に代わってしまう。はがきや手紙は、部屋に飾って眺めることができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に飾り付けを行い、居心地良く過ごせるよう努めている。行事等の利用者様の写真を掲示している。窓を開けることで、外気を入れるなどして湿度、温度管理をしている。	ユニットごとの細長い共有空間は天窓からの光があり、テーブルと椅子のほかソファや畳のコーナーがあるなど、利用者が思い思いに寛げる環境ができている。温度や湿度も管理され、利用者の作品や季節ごとの飾り付けがあるなど、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やホール、玄関前にソファを置き、利用者様が自由に過ごせるよう居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、アルバム、本など使い慣れたもの、思い出のあるものなどを居室に置き、安心した生活がおくれるよう支援している。	居室にはベッドとクローゼット、棚などが備え付けられており、家族の写真や本、正月に作られた本人の手形などが飾られている。清潔で暖かく快適な居室であり、安心した生活ができるように配慮されている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ときわの里 2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールを中心に個室の出入りが把握できるように設計されている。トイレは表示、浴室はのれんをかける場所がわかるようにしている。手すりがついており、安全に移動できる。		